

生涯教育研修活動報告書

一般検査研究班

- 1 実施日時：2023年5月24日 19時00分～20時00分
- 2 会場：Web開催 教科・点数：専門教科－20点
- 3 主題：基礎から学ぶ、一般検査のトピックス
- 4 講師：講師1 平尾 明日香（栄研化学株式会社）
講演2 阿部 雅仁（栄研化学株式会社）
- 5 協賛：なし
- 6 参加人数：会員 297名 賛助会員 0名 非会員 0名
- 7 出席した研究班班員：藤村和夫 室谷明子 柿沼智史 中川禎己 松本実華
渡邊裕樹 小針奈穂美 織田喜子

8 研修内容の概要・感想など

今回も Web での研修会となった。一般検査では、年度初めの研修会は、初心者を対象とした基礎的な内容を主体とする研修会を企画し、開催している。今回は、平尾氏と、阿部氏を講師に、試験紙法と、便検査に関する基礎的な内容に、トピックスを交えての内容で開催した。平尾氏からは、尿試験紙検査における基礎知識について講演された。精度の高い尿検査結果を得るためには、正しい採尿方法で採取した尿検体でなければならない。しかし、尿検体の多くは、患者自身に採尿していただくため、正しい採尿指導が必要となる。多くの施設では、採尿室にポスターを掲示し、中間尿の採取を啓発している。尿試験紙は湿気や温度による影響を受けるため、取扱いにおいては注意が必要である。また、アスコルビン酸による影響や、ビリルビンやケトン体が偽反応を呈する薬剤について、また、その確認方法についての解説もあった。尿の色調が試験紙の呈色に影響する偽反応が最も多いとされるが、検査を実施するうえでは、尿の外観をよく観察し、また必要時には、電子カルテなどで、患者の投薬情報などを知ること重要であると感じた。試験紙の取扱い、さまざまな偽反応を呈することを理解したうえで検査を実施することが、重要であることを再認識した。

阿部氏からは、NST 領域における便潜血検査の臨床的意義と検査の活用について講演された。NST（栄養サポートチーム）は、定期的なラウンドによる病状の観察や、詳細な検査を行うことで、主観的および客観的に患者の栄養状態を評価し、必要な栄養量と投与ルートを立案、

実行を行うことにより、患者の病態回復に大きく貢献している。また、低栄養状態は、褥瘡の重要な障害因子である。そのため、褥瘡の改善には低栄養状態の改善が必須である。また、酸素供給量の低下を示す貧血の原因の多くは消化管出血であり、便潜血検査の陽性者の中で、大腸癌が占める割合は4%と比較的高いことがわかった。さらに、腫瘍の大きさや深達度は、便ヘモグロビン濃度に比例することから、便ヘモグロビン検査の自動化と定量値での報告が推奨されるとのことであった。しかし、便潜血検査におけるカットオフ値の標準化がなされておらず、各施設での設定が統一されていないのが現状である。早い段階での標準化の必要性を感じた。また、近年、便潜血検査と同時にカルプロテクチンなどのバイオマーカーを測定することが多い。今後、炎症性腸炎の診断、治療にも大きく貢献することが期待でき、その重要性を再認識することができた。

提出日；2023年7月11日

文責：室谷明子

生涯教育研修活動報告書

W (半角大文字) eb (半角小文字) 開催で統一

〇〇検査研究班

西暦で統一

1 実施日時： 2022 年 4 月 1 日 9 時 00 分～10 時 00 分

確認！

2 会場： Web 開催 科目・点数 専門科目－20 点

姓と名前に間に全角 1 スペース

3 主題： 〇〇〇

4 講師： 〇〇 〇〇 (所属施設名は技師会登録名、企業名は正式名称)
〇〇 〇〇 (△△株式会社)

ここでは、姓と名の間を詰める

5 協賛： あり、なし

6 参加人数： 会員 10 名 賛助会員 0 名 非会員 0 名

7 出席した研究班班員： 〇〇△△、◇◇□□

この報告書は「だより」に掲載されます。
埼臨技文書のルールに従ってください。

記入内容は 1 から 8 の項目。

座長・司会の記入は必要なし

8 研修内容の概要・感想など
今回の研修会では・・・
・・・であった。

【この文章は埼臨技だよりに掲載するので
次ページ記載の「だより文章作成時の注意点」に従う】

◎文書全体を通して数字は、
1 桁は全角文字、2 桁以上は半角文字を使う。
年月日内の数字も。

(埼臨技のローカルルールだが、
埼臨技文書では従う。
他所では他所のルールに従う。)

ここでは
姓と名の間を詰める

西暦で統一

提出日；2022 年〇月〇日

文責：〇〇△△

研究班内で必ず回覧、チェックしてから提出してください。

だより文章作成時の注意点

- ◎ **フォント**は菌名以外、英数字も含め **MS 明朝**
- ◎ **数字 1 文字は全角、2 文字以上（11 など）は半角**
- ◎ 口語調の不整合（すべて **～である ～であった調が良い**）
- ◎ 事（こと）、出来（でき）、尚（なお）、更（さら）、物（もの）、時（とき）、所（ところ）、頂く（いただく）、程（ほど）、為（ため）等は**ひらがな**を用いる
- ◎ ご講演**いただいた**。 は用いない。
- ◎ 大変**有意義な研修会**となった。 は用いない。
- ◎ **講師の所属施設は本文に入れない**。
- ◎ 医師は〇〇**先生**ではなく→〇〇**医師**
- ◎ **医師以外（看護師、検査技師、放射線技師、その他）は**→すべて〇〇**氏**
（〇〇技師ではない）
- ◎ 〇〇**させていただく**。を多用しない。

使用する時は・・・

1. 相手または第三者の許可を得ているかどうか
 2. そのことで自分自身が恩恵を受けるのかどうか
- 文化庁「敬語の指針」より

埼臨技 総務部発